

GREEN ニュース

行動する環境アドバイザーの会報

第101号 2025

環境アドバイザー連絡協議会

第13期代表 井上金治
令和7年7月 発行
創刊平成5年7月16日



日光白根山のガレ場からの中禅寺湖と男体山。手前には高山植物の女王と呼ばれるコマクサが咲いていました。この地域のコマクサ、環境省の調査によれば S11 以前の文献に生育の記載はなく ITS 領域の遺伝子型も 3 種類以上あることから国内外来種の可能性もありそうです。 前橋市 酒井義明

群馬県環境アドバイザーの登録状況 (2025年7月14日現在)

第13期(登録期間:2024年4月1日~2027年3月31日)の登録者数は、更新者、新規登録者を含め、合計342名です。自然環境部会191名、温暖化・エネルギー部会152名、ごみ部会119名、広報委員会52名が登録し活動されています。

【目次】

- P2 群馬県環境 SDGs 波及キャラバンの紹介
- P3 野生動物との共存、猿の生息域拡大
下仁田納豆工場見学
- P4 群馬の水力発電の可能性について考える
大阪・関西万博 共創チャレンジ!
- P5 多々良沼の「ヨシ焼き」からみる自然と人の営み
- P6 経木工場と岩宿の歴史博物館見学会
- P7 ホテルと共に
- P8 地域環境学習推進事業採択結果
編集後記

群馬県環境情報サイトの URL が変わりました
2023/10/1~



<https://www.pref.gunma.jp/site/eco/>

ECO ぐんまの X (旧ツイッター) をフォローしよう!



群馬県環境 SDGs 波及キャラバンの紹介

群馬県 環境森林部 環境政策課 環境政策係

群馬県では 2050 年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「ぐんま 5 つのゼロ宣言」の実現に向け、県民や企業の環境意識の醸成と地域環境課題の解決に向けた行動の促進するため、県内 12 市と群馬県公認環境 SDGs ファシリテーターが連携し、群馬県環境 SDGs・脱炭素まちづくりカレッジを開催することで、県内全体に環境 SDGs の取組を波及させていくことを目指しています。

※環境 SDGs : SDGs の 17 のゴールのうち、特に環境問題に関するものに重点をおいたもの。



表. 群馬県環境 SDGs 波及キャラバン 12 市開催予定 (6 月 20 日時点)

市	会場	日時	対象・参加人数
桐生市	新川公園	10 月 26 日(日) イベント(10 時~15 時)に合わせて実施	地域住民
伊勢崎市	伊勢崎市みらい公園(いせさき市民のもり公園)	10 月 5 日(日) 10 時~15 時	環境フェアイベント来場者のうち当日参加希望者
館林市	館林市役所文化会館 3 号室 (予定)	7 月 28 日(月) 午後	学校関係者及び社会教育団体 30 名~40 名程度
渋川市	渋川市役所第二庁舎 201 会議室	7 月 5 日(土) 16 時~17 時半	20~30 人程度
藤岡市	藤岡市立鬼石中学校	6 月 19 日(木) 13 時~18 時頃	学校関係者(教職員・生徒など)・ 10~20 人程度
富岡市	富岡地域づくりセンター	12 月 3 日(水) 13 時半~15 時	地域住民・25 人まで
安中市	安中市役所本庁舎 会議室	10 月 9 日(木) 14 時半~16 時半	市職員・30~40 人程度
みどり市	大間々公民館	9 月 19 日(金) 時間は調整中	地域住民、学校関係者(教職員・生徒など)、地元企業・団体、市職員など(定員は調整中)

※前橋市、高崎市、太田市、沼田市は現在調整中。

※掲載内容は変更となる場合があります。詳細は上部 QR コードから御確認ください。

□脱炭素まちづくりカレッジプログラム一覧

・脱炭素まちづくり PLAY!

2030 年の温室効果ガス排出量半減に向けて、まちづくりを疑似体験するロールプレイング型の未来体験プログラムです。



・超炭素社会ナパジャ脱出ゲーム

プレイヤーはサイコロを振り、クイズやイベントをクリアしながら 60 分以内に超炭素社会からの脱出を目指します。

・群馬県版マイ CO2 シミュレーター

みなさんが日頃の生活様式において、二酸化炭素をどれだけ排出しているかを簡単に可視化することができます。





野生動物との共存、猿の生息域拡大

副代表（吾妻地区草津町）反町忠雄

私が住んでいる草津町は標高 1000m から 1200m の山の中です。
毎年 6 月中旬になると、桜の木の実を食べるために猿が麓から登ってきます。



以前は、私の住む地域には近づかなかったが、草津町にある療養所の敷地を毎年だんだん上ってきました。去年は私の住む地域の屋根の上に乗って遊んでいるところを 1 度目撃しました。

今年を目撃情報です。

5 月 14 日（水）に療養所の駐車場に群れているところを今年初めて目撃しました。

6 月 12 日（木）18:00 頃に療養所入口にいました。

6 月 13 日（金）7:00 頃に療養所入口にいました。

6 月 18 日（水）7:00 頃に療養所入口から国道 292 号線沿いに温泉街方向へ移動しているところを目撃。
7:30 頃、私の住む地域の木の上にいるところを確認した。10:30 頃までいた。

野生動物と共存するために何をすべきか、毎年、餌を求めて生息域を徐々に広げている猿に対して、今後の対応に注意が必要です。



下仁田納豆工場見学

ごみ部会（高崎市）黒澤智志

ごみ部会では【2050 に向けたぐんま 5 つのゼロ宣言】

宣言 4 プラスチックごみ【ゼロ】 活動現場から学ぶ！を合言葉に 2 月 27 日みどり市に阿部経木店工場様、5 月 23 日有限会社下仁田納豆工場様を見学しました。

阿部さんは仕事から経木の価値に気付き事業承継する。経木は樹齢 40 年前後の赤松を使用する。巨大な鯉節削り機に見える自動式経木機は阿部さんの遠縁にあたる人が制作した。経木には抗菌、調湿、土に環る、栄養価高いグルタミン酸含有等学べば凄いことが分かる。しかし価格競争の時代に入りより安価、便利等を求めプラスチック資材が台頭し経木店は急速に減少した。納豆包装も紙カップ、PSP（発砲スチレンシート）製食品容器に変わるが、下仁田納豆南都社長は、会社内の設備状況から経木一択を決意する。

高度経済成長時代の流れの中、人口増加、大量生産大量消費が当たり前のため「価値 役割 資源 地域」が忘れさられ、材料、成分栄養や養価等はおいて行かれました。しかし物事には必ず限界がくる時期があります。それが今です！国内は過剰なサービスからプラスチック容器増加の一途ですが経木のデザインや工夫次第で新たな可能性を模索する。

收拾つかない問題を私達環境アドバイザーの発信及び活動通じて皆様に伝達・体験・共感できる機会を作りたいと感じました。



阿部経木店 Instagram URL abekyougiten

有限会社下仁田納豆 Instagram URL takamichinanto ぜひこの機会に follow me !

群馬の水力発電の可能性について考える

温暖化・エネルギー部会長 本多洋治



放流開始時の様子

5月18日(日)、みなかみ町にある八木沢ダム点検放流イベントに参加してきました。当日は、水上高原スキーリゾート駐車場に車を止め、送迎バスで須田貝ダム下を経由して洞元湖畔に沿って、約30分で八木沢ダムに到着しました。約400mのコンクリート水路から放流される水量は圧巻で豪快そのものです。参加された皆さんもカップを羽織って、ダム汁を堪能していました。

ご存じのとおり、八木沢ダムは、1967年に完成した県最北部にあるアーチ式コンクリートダムです。ダムの機能には、「台風などで発生する洪水被害を軽減するための洪水調整」「河川環境を保全するための流水の正常な機能維持」「水道用水や農業用水の供給」の機能がありますが、温暖化・エネルギー部会に所属する私の関心が向かうのは「電力を供給する発電機能」です。八木沢ダムの最大出力は16万kwで、一般家庭約5万3千戸分の電力をカバーする発電量となっています。



放流ピーク時の様子



群馬県は、全国でも上位の包蔵水力を有しており、これからの電力開発に関しても大きな可能性を秘めています。県の再生可能エネルギーの導入促進計画の中でも、小水力発電の取り組みが進められています。昨年12月には沼田市の平川小水力発電所が運転開始されました。地域の自立分散型電源の普及推進の意味からも大きな可能性があり、今後の推進が期待されています。

CO₂を発生させない再生可能エネルギーとして、太陽光発電、バイオマス発電とともに水力発電の普及促進が求められています。エネルギーの地産地消を進める取り組みとして、ダム開発に伴う自然環境への影響を考慮しながら、県民一人ひとりが開発推進に関心を持ち、どのように関わっていくかを考えていくことが必要だと感じました。

大阪・関西万博 共創チャレンジ！

広報委員会(前橋市) 酒井 義明

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、大阪・関西万博(2025年4月13日~10月13日)が開催されています。今回の万博は、SDGsの達成に貢献するために、国内外において多様な参加者が主体となり、理想とする未来社会を共に創り上げていくことを目指す「TEAM EXPO 2025」プログラムに「共創チャレンジ」「共創パートナー」として参画することができます。

今回「共創チャレンジ」に常見企画さんが「水のある風景」プロジェクトとして参画されましたので、環境アドバイザーでもある常見企画代表の常見智之さんより情報提供をしていただきました。

「水のある風景」プロジェクトは、日本国内の湧水地を紹介し、その魅力、地域文化、そして自然環境保全の重要性を伝えることを目的としています。これまでの主な活動は、命の源である水の尊さとそれに支えられる文化・暮らし・産業を国内外へ冊子とWEB等で情報発信をして来られました。

今後共創チャレンジをきっかけに、地域の湧水を活かした特産品企画・普及啓発、学校・地域・観光と連携したエコツーリズム推進や湧水の保全・次世代教育活動・世界との交流に向けた国際展開などアドバイザーの皆さんにも参加していただき、活動の輪をつなぎ、広げる企画を進めていくそうです。



多々良沼の「ヨシ焼き」からみる自然と人の営み

館林市 井野口智子

群馬県館林市と邑楽町にまたがる多々良沼では、毎年、地元のボランティア団体「多々良沼自然公園を愛する会」が中心となり、行政や多くのボランティアのご協力のもと、ヨシ焼きが実施されています。

今年で19回目になるこの活動は、多々良沼の貴重な湿地生態系を守り、次世代へ継承するための重要な取り組みです。

ヨシ原の多面的な価値とヨシ焼きの意義

ヨシ原は、野鳥や水中生物にとってかけがえのない生息地であり、まさに生きものの宝庫です。ヨシの中には鳥たちの隠れ家、ねぐらになり、初夏の今頃はオオヨシキリが賑やかにさえずり、巣作りに励んでいます。夕方にはツバメたちが一斉にヨシ原に入っていく「ねぐら入り」もみられます。ヨシやマコモの根っこは、水の浄化や降雨時に水の流れを緩やかにし、洪水から地域を守る天然のスポンジ（浄化装置付き貯水池）として大きな役割を果たしてくれています。

かつて、ヨシやマコモは茅葺き屋根の材料や燃料、馬や牛などの飼料として地域住民に利用され、その採取が自然にヨシ原の健全な維持に繋がっていました。しかし、生活様式の変化とともに利用が減少し、ヨシ原は放置されるようになりました。

ヨシ焼きは、この失われた人間と自然の関わりを現代に再生した営みであり、ヨシ原の更新を促すための手法です。これにより、新しいヨシが育ち、水環境、生物多様性の維持、生態系へのポジティブな効果を担っています。



地域との共生、そして湿地の未来へ

一方で、ヨシ焼きに伴う煙や灰は、地域住民の方々の苦情に繋がることも少なくありません。また、ヤナギの種綿が雪のように舞う、年に一度の幻想的な光景でさえも苦情になり、そのことが原因で多々良沼住宅側の雌株のヤナギが切られてしまったという事例もあったそうです。更に、多々良沼自然公園を愛する会が毎月行っている水質調査では、生活排水・農業排水による水質汚染も深刻な問題になっています。

そんな現代社会において、ヨシ焼きの必要性、樹木たちの役割、水環境、ヨシ原全体の生態系が私たちに与えてくれる恩恵など、地域の方々に理解を深めてもらうことは、とても大きな課題だと切に感じます。

現在、世界の約85%の湿地が消失していると言われています。多々良沼に限らず、県内に残された湿地、水辺は本当に貴重な存在です。その保全活動の担い手も高齢化している中で、私たち人間にとっての安心安全な環境だけでなく、そこに息づく多様な生命、そして生態系そのものにとって健やかな場所でありつづけること。未来へ繋ぐ、新たな保全活動のあり方を模索していくことが、今私たちに求められています。

環境アドバイザーとして、何ができるか？

繋がり合いみんなで出来ることを、楽しみ、考え、行動していきたいです。



経木工場と岩宿の歴史博物館見学会

桐生市 板寺公子

ごみ部会では晴天に恵まれた2月27日(木)、みどり市の阿部経木店と岩宿博物館の見学会を実施致しました。(両毛線岩宿駅10:30集合)(今回見学をご快諾頂きました阿部経木店様には心より感謝申し上げます。)

経木の歴史は古く、およそ1500年前中国大陸から仏教が伝来し、お経を書くための貴重な紙の代用として経木の原点の「へぎ板」が使われました。江戸時代には筍の皮などで食べ物を包みましたが、淡竹など入手困難な時期があり代替品として経木が使われるようになりました。マッチの普及以前は経木に硫黄を塗ったものを付木(つけぎ)と呼び、火だねを運ぶための生活用品でもありました。このように経木は先人の知恵と努力により用途や形を変え、匠の技によって受け継がれてきた「伝統的 日本文化」の1つと考えられます。

現在全国の経木製造工場で稼働している全ての自動式経木機は、桐生市の群東経木株式会社で開発・製造・販売された製品です。それまでの手動式から自動式に開発された機械は大量生産を可能にし、近隣だけでなく全国へ普及しました。群馬県の自然豊かな森林、乾燥に適した空風、そしてこの自動式経木機の普及により、当時群馬県が経木の一大生産地になりました。(残念ながら自動式経木機は現在製造販売はされておらず、現存する全ての機械は各社において独自に修理しながら大切に使用されています。現在県内の経木製造会社は2社)

〈経木工場見学〉 経木は木材(赤松ほか)から伝統的な技術で作られる極薄の包装材で、プラスチックのない時代に盛んに使われていました。今でも納豆の包装や饅頭の台として目にする事があります。プラスチックを使わない、環境に優しい暮らし方を考えるため伝統的な経木について学ぶ事となりました。

日本の多くの城にはよく松が見られ、大変美しい景観を造り出しています。大きな理由は、松は常緑樹で落葉せず、生命力も強く目隠しや防風林の役目を果たします。実はその他、食糧・薬・建材・器・武器にもなり、全てを利用する事が出来る大変素晴らしい材料で、籠城などに備える目的もあったそうです(諸説あり)。

経木の代用品としてプラスチック製品が大量に生産・使用されてきましたが、プラスチックごみが生態系にまで影響を及ぼし環境汚染が大きな問題となっています。日本の伝統文化と自然の恵みの恩恵である経木を生活に取り入れる事で、脱プラスチックの環境問題に貢献できるのかもしれませんが、経木は、殺菌・抗菌効果や使用後の堆肥化、バイオマス利用など環境に優しい製品としても再評価されています。このような優れたものを改めて見直し、多くの方に知っていただく機会を作る事が必要であると強く感じた見学会でした。

環境問題の解決策の一つに成り得る経木。阿部経木店は、先人の知恵を引き継ぎご家族一丸となって日々経木を作り続けています。



〈岩宿遺跡・岩宿ドーム見学〉

岩宿遺跡は、日本列島における旧石器時代の存在が初めて証明された場所として知られています。1946年、相沢忠洋氏によって関東ローム層の中から縄文より以前の石器が発見され考古学の学説が大きく書き替えられました。



岩宿博物館

日本の考古学史上最大級の発見と言える岩宿遺跡と数々の資料や展示物を間近で見ることが出来る、何度でも訪れて頂きたい素晴らしい施設でした。

ホタルと共に

(前橋市) NPO法人エコ・ボランティア理事長 池田典子

NPO法人エコ・ボランティアは年間を通して「荻窪公園でホタルの生息地を管理して保護活動をしている」団体です。このホタルはおもにゲンジボタルが自然発生している場所です。活動を始めて二十三年になりますが、今では市民の皆さんに愛される場所になりました。昭和の時代にこの場所はホタルの名所でした。先代の理事長平田次男は餌となるカワニナがたくさん生息している事に気づいてホタルの住む環境づくりに力を入れて仲間とNPOを設立しました。ホタルのとりこになって20年以上生息地造りをしてきました。その中で、おぼろげながら分かってきたことは、ホタルと人との生活の結びつきが、想像以上に強いことです。



ホタルは人里の昆虫です。人里の自然環境を思い浮かべると、雑木林、畑、田んぼ、川、ため池などが挙げられます。それは長い年月をかけて人の手が加えられてきた自然と言えるでしょう。そのような自然環境こそがホタルが棲める場所なのです。



今、日本の各地ではホタルの住む環境が次々に失われてきています。なぜならば人里の自然に、人の手が加えられなくなったからなのです。そこで、人里の自然が健やかに保てるよう私たちが工夫して手を加えて、ホタルの棲む環境を造ることにより蘇ってくるのだと考えています。

ホタルを人里に戻す試みが県内各地で行われてきています。それらは、何れも、人里の自然を考え直すことに、つながります。ホタルを呼び戻す夢は自然を考えなくして、叶いません。

「荻窪公園のホタルは前橋の宝」と市長さんもおっしゃっていた様に、市民の皆さんにも宝であり癒しの場所です。荻窪公園のホタル鑑賞者は親子連れがとても多く、ホタルを見てはしゃぐ子供の姿が見受けられます。また、園内はバリアフリーの為に車いすの方も来て楽しんでいただいています。



近年、夫婦共働き核家族も増えて親子の会話も少なくなってきたように見受けられます。子供が大人になり、小さい頃にホタルをみたこの場所へまた子供とホタルを見に来られる「思い出の場所」を次世代につなぐことが私たちの使命だと思い活動を続けています。来年もまたホタルが飛ぶように活動を続けていきたいと思ひます。

デコ活宣言！ネイチャーポジティブ宣言！

2030年のネイチャーポジティブ（自然再興）の実現、さらに2050年の“自然と共生する社会”を目指して行きましょう。



令和7年度 地域環境学習推進事業実施予定事業一覧

No.	事業名等	講座名等	開催日	曜	定員	対象
南橋の自然観察と環境を守る会 会長 宗 義彦						
1	身近な自然に目を向けて、地域の自然環境を守ろう	桃ノ木川上流域の自然観察会	7月6日	日	50	幼児以上
		赤城白川下流域の自然観察会と河川敷の清掃	10月5日	日	50	幼児以上
		敷島公園冬鳥の観察会	1月25日	日	50	幼児以上
共愛学園前橋国際大学短期大学部 食育研究会 代表 木村 祐美						
2	エコ・クッキングを学ぼう！（ソーラークッカー体験）	エコ・クッキングで、身近な食生活からエコ活動をはじめよう。（ソーラークッカーを体験してみよう。）	8月23日	土	24	幼～中
NPO法人新田環境みらいの会 理事長 西村 豊						
3	ふるさとの自然と未来を考える連続学習会 ～新田の大地・水・生物・資源を知ろう～	新田地域の大地ができるまで ～地形・地質のおはなしと観察会～	9月21日	土	30	小5以上
		新田湧水群に息づく自然と未来 ～新田地域の自然観察とプラスチックごみ調査～	10月18日	土	30	小5以上
		身近な資源を未来へつなぐ ～小型家電リサイクル工場見学と意見交換～	1月22日	木	20	高校生以上
ぐんま森林インストラクター会 会長 根岸 稔						
4	小根山森林公園落ち葉を歩く観察会 ～巨木のスズカケノキやケヤキの落ち葉の道を歩こう～	小根山森林公園落ち葉を歩く観察会 ～巨木のスズカケノキやケヤキの落ち葉の道を歩こう～	11月29日	土	30	幼児以上
キッチンの科学プロジェクト 金子 浩子						
5	親子でエコクッキング！食から考える環境問題	親子でエコクッキング	8月12日	火	30	幼児以上
		食品ロス ～野菜スタンプでエコバッグ作り～	8月12日	火	40	幼児以上
群馬体験活動研究会 角田 正基						
6	食品ロス規格外野菜で親子ワークショップ ～ピザ・お野菜クッキー作り～	親子でピザ作り	8月31日	日	30	幼児以上
		廃棄野菜でクッキー作り	9月7日	日	30	幼児以上
観音山丘陵の自然を守るネットワークの会 会長 近藤 英敏						
7	金井沢の生物多様性アップ作戦	金井沢の植物と生き物観察会	10月19日	日	20	幼～中
		外来種（ニセアカシア）退治と笹刈り クヌギ植栽後の整備と自然観察	2月未定		20	幼児以上
上州ぐんまESD実践研究会 代表世話人 萩原 豪						
8	第8回上州ぐんま市民環境保全活動発表会&交流会 （上州回議2025） ～「5つのゼロ」と「ネイチャーポジティブ」実現に向けた市民の一步～	「5つのゼロ」と「ネイチャーポジティブ」実現に向けた市民の一步	11月29日	土	100	高校生以上
群馬県環境アドバイザー・高崎地区会 原田 邦昭						
9	井野川の動植物観察による環境調査	井野川の水生生物調査による水質判定	7月27日	日	30	幼児以上
		井野川堤防周辺の植生調査	9月20日	土	20	幼児以上
環境カウンセラーズぐんま 会長 内山 恵子						
10	みんなで実現するネイチャーポジティブ！ ～群馬県がネイチャーポジティブ先進地域になるために～	ネイチャーポジティブの概念とその 必要性について（仮）	9月未定		20	高校生以上
		企業との連携によるネイチャーポジティブ活動の具体的な取り組み（仮）	10月未定		20	高校生以上

～～～編集後記～～～



梅雨も明け、夏本番ですね。暑中お見舞い申し上げます。
最近の暑さは本当に災害級と言ってもよいぐらいです。皆さまにおかれましては活動が活発になるこの時期、熱中症対策を万全にして安全で楽しい活動を楽しみましょう。
そんな暑い夏ですが、少し暑さが和らぐ夜に夕涼みがてら散歩をしていると、妖艶なカラスウリの花やセミの羽化などこの時期ならではの楽しみに出会うこともできます。適応と緩和で楽しい夏を過ごしましょう。



広報委員会 酒井義明

GNの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース（GN）は年4回発行します。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境政策係 環境サポートセンター 角張

〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-2827 FAX 027-223-0154 E-mail: kakubari-toshiaki@pref.gunma.lg.jp